



東京部会(第97回)

日時:	2018年1月18日(火) 19:00-21:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原聡一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、鈴木深(東京証券取引所)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、杉浦光紀(都立秋留台高校)、塙枝里子(都立府中東高校)、藤巻朗(目黒学院中・高)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、後藤洋政(慶応義塾大学)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上10名。

(1) 大会関係の総括と企画が話し合われた。

12月冬の経済教室の総括に続いて、3月17日に予定されている年次大会の概要と、それへの取り組みが報告された。また、夏の経済教室の日程が確定して、報告された。

夏の経済教室の日程と会場は以下の通りである。

8月2日(木)名古屋中学、8月3日(金)名古屋高校、会場:ウインクあいち

8月6日(月)大阪高校、8月7日(火)大阪中学、会場:国民会館

8月9日(木)、8月10日(金)東京高校、会場:東証ホール

8月16日(木)8月17日(金)東京中学、会場:東証ホール

講演講師、講義内容、実践報告などのプログラムに関しては、二月の東京部会までに原案を作成、検討することとなった。

(2) 実践報告が3件あった。

1) 杉浦光紀先生(都立秋留台高校)「契約と消費者破産」

高校三年生の必修「現代社会」での実践で、生徒の課題に対応した法教育と経済教育の試みである。また、司法書士と連携した外部連携の実践の試みでもある。

授業は三時間構成で、1時間目に民法と契約の基礎を紹介する。2時間目は多重債務の原因と対策を考えるメインの時間である。そして3時間目に貸金業法の改正の映像をもとにした専門家による解説と、ケーススタディ「返済できない! どうする?」に基づくグループ討論をするというものである。生徒が借金問題で自己破産にならないようにするには法的知識だけでなく行動経済学の知見を取り入れた授業としたとのことである。

杉浦報告では、生徒の授業による変容や理解に関して詳細な分析があり、また、授業者としての感想も報告された。それによると、生徒がこれから生きてゆくために必要なものに気づかせる授業にはなっているが、生徒の反応が想定内であり、思考の広がりや深まりの点で不満が残ったという。そこで、授業改善として、野間敏克先生が昨年の夏の経済教室で発表されている「野間モデル」を使ってこの問題を整理した授業案を提案された。加えて、人権と立憲主義、多数決を組み込んだ「人間らしく生きる」という憲法学習の実践も紹介された。

検討では、2時間目の導入に実施したクイズを含めて、特に行動経済学と銘打たなくともよいものが入っている点が指摘された。また、授業内容が豊富すぎて良いことを教えているが消化しきれていない。そんな場合は、大きな紙を使って要素を書き出し、そのなかで本当に必要なものをあぶりだすことが有効で、入れ込むことより捨てることが大事であるという篠原代表からのアドバイスがあった。さらに、外部講師との連携だけでなく、内容的には家庭科の領域とも重なっているので、家庭科との連携なども追究したらよいという指摘もなされた。

2) 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)「野間モデル労働の授業設計」



杉田実践は、労働の授業を「野間モデル」を使って行なった実践の報告である。労働の授業は、教材選択の5条件(メルマガ100号、17年5月で紹介したもの)に適合したものであることがまず紹介された。そのうえで、生徒には、労働市場の変化のなかで「したい仕事」「できる仕事」「求められる仕事」を高校段階から考えさせたいこと、「正規労働者が幸せで、非正規が不幸せ」「企業は悪で、労働者は善」という言説を冷静に問い直させたいこと、労働市場における情報の非対称性に気づくこと、働き方の多様化のなかで、生徒にスキルアップや10年単位の時間的視野の拡大を意識させたいという狙いの授業であるという紹介があった。

検討では、労働市場に関しては労働分配率の低下があり、一方では生産性はじりじり上がっているなかで所得の格差が広がっている現実を踏まえて、授業を進めるとよいという指摘がされた。

### 3) 埜枝里子先生(都立府中東高校)「公共財を考える」(加藤一誠先生の特別講義)の報告

埜先生からは、1月10日に実施された高校三年生対象の「政治・経済」での、加藤一誠先生(慶応義塾大学)の特別授業「公共財を考えるー多摩川環境整備からー」の報告と生徒の反応が報告された。

加藤先生の授業は、まず、公共財の定義を公共財の歴史から取り上げ、次に、具体的事例として学校の近くの多摩川の堤防整備を事例にして紹介。そして、公共財整備のためにどれだけの資金を出すかという問題を考えさせるという流れの授業である。特に、資金提供問題に関しては、需要曲線を横から読むことでして、公共財提供のための公的資金にも支払い意識額が利用されていることに気づかせてゆくという流れの授業である。需要曲線を横から読むことに関しては、埜先生の授業の中ではすでに「社会の幸せを経済で考えるー横軸から需給曲線を読む」という実践がされていることも合わせ紹介された。

生徒の反応では、やや難しいという声もあったが、加藤先生の提出されたわかりやすい事例(くるくる寿司でいくら食べるか)などが好評であったことがプリントともに紹介された。

### (3) センター試験に代る新テストの試行問題(「現代社会」)の検討が行われた。

篠原代表によると、試行テストの問題は、形式および内容としてよく練られていて、現在の教科書にもとづくこれまでの授業では対応できないものになっているとの評価である。ただし、これだけの問題を作成する作問者には相当の実力が必要であることが問題になろうと指摘された。また、経済の問題では、良く工夫されているが、エコノミストから見てミスリード(条件や時代を限定しないと全部の選択肢が正解になってしまう設問など)の部分があり、この種の問題を作る場合の難しさが出てしまっているとの指摘もされた。

検討では、いくら工夫されても持続的に高い質の問題ができるのかという疑問や、形式化することによって対策ができてしまうのではないかという意見も出された。

### (4) 鈴木深氏(東京証券取引所)より、東証が企画している「金融リテラシー向上の研修の講師派遣サービス」の案内があった。

(5) 今回の部会は、参加者数は多くはなかったが、実践報告の紹介検討、新テストの分析など、現場の実践とエコノミストの協働による活発な検討と議論がおこなわれ、充実した部会であったといえよう。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定: 18年2月26日(月)19:00~21:00 会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。

なお、慶応大学の会場には受付に断らずに直接行ってほしいとの要請がされている。

